公開懇談会：ロング・ディスタンス・トレイルとハイキングの未来を考える

「今後50年を見据えて 今、長く歩くということ」

～ロングトレイルの維持管理・運営システム構築に向けた考え方報告会～

10:00　開会
10:10　基調講演：「地域と共に育む道」
渡辺綱男
10:40　「考え方」公表
11:00　検討委員からの意見
11:20　今後 50 年の長距離自然歩道が歩むべき道
渡辺綱男・奥田直久・木村宏・相澤久美・長谷川晋
12:10　会場からの質問・意見
12:25　閉会

基調講演
渡辺綱男
自然環境研究センター
検討委員
神田修二
いであ株式会社
海津ゆりえ
文教大学
勝俣隆
トレイル研究家
木村宏
信越トレイルクラブ
相澤久美
みちのくトレイルクラブ
環境省
奥田直久
自然環境局長
岡野隆宏
利用推進室長
司会・進行
長谷川晋
トレイルブレイズハイキング研究所

日時：令和５年２月19日（日）9:40開場 10:00 開演

会場：自由学園 明日館（豊島区西池袋 2-31-3　池袋駅から徒歩５分）

＊駐車場はございませんので近隣のコインパーキングをご利用ください。

参加費：無料・事前申込制　＊オンライン同時配信

＊2 月 15 日までに参加フォーム又は以下のお電話にてお申込ください。

申込フォーム URL：https://forms.gle/hd6NPWSFfPcXD1aTA

電話番号：03-3560-2046（一社）トレ研　担当：丹生

当日配信用 QR コード

フォーム用 QR コード

主催：環境省　事務局：（一社）トレイルブレイズハイキング研究所
問合せ先：メール admin@trailblaze-hi.org ／電話　03-3560-2046
令和４年度　ロングトレイルの維持管理・運営システム構築に向けた提言書作成業務

公開懇談会：ロング・ディスタンス・トレイルとハイキングの未来を考える

今、長く歩くということ

後年据
50見て
今をえ

長距離自然歩道は、昭和 45 年に設定が開始され、その総延長は約 28,000km に及びます。東北地方沿岸部においては、東日本大震災からの復興の基本方針に基づき「みちのく潮風トレイル」の整備が進められ、令和元年に総延長 1,025km のトレイルが全線開通に至りました。

一方で、長距離自然歩道の歴史は 50 年を超え、一部路線においては施設の老築化や維持管理の担い手不足、利用促進に対する取組み不足等、さまざまな課題に直面し、積極的に活用されない状況が続いています。

昨今身近な自然の価値に対する認識や健康志向が高まるなど、人々の価値観やライフスタイルに変化が起きつつあります。長く歩き、自然や地域を楽しみながら国土の理解を促す長距離自然歩道は、国民の心身の健康に通じるだけでなく、地域社会の活性や経済効果、自然や歴史文化など地域資源の保全など、重要な意義と効果をもたらすものとして期待されます。そのため今後の長距離自然歩道の快適かつ安全な利用を推進するため、作り方や運営方法など、ロングトレイルの望ましいあり方を検討し「考え方」として取りまとめました。

この度、その成果を発表すると共に、環境省と、検討委員としてご参加いただいた有識者らによるクロストークの機会を設けます。

日本の“長く歩く旅の道”と“文化”について共に考えましょう。

登壇者プロフィール

奥田 直久｜NAOHISA OKUDA　環境省 自然環境局長

国内外の生物多様性目標の達成に向けた施策推進を含む、自然環境 政策の全体的な計画策定と履行に責任を持つ環境省自然環境局長。1986 年に大学を卒業し環境庁に入庁、以来 35 年間、自然保護の専門技官として国立公園や世界自然遺産の計画・管理、野生生物保護 の国際協力、自然再生事業、自然環境教育等を担当。2021 年 7 月の現職就任前の 3 年間は、環境省及び財務省の幹部として、自然環境保全以外の行政分野で勤務。

渡辺綱男｜TSUNAO WATANABE

1956 年東京生まれ。1978 年環境庁に入庁、全国の国立公園や野生生物の保護管理にあたる。釧路湿原の自然再生や知床の世界遺産登録、生物多様性条約 COP10 の開催、三陸復興国立公園づくりなどに携わり、2012 年環境省を退官。現在は自然環境研究センターや国連大学に勤務。

著書『日本の自然環境政策』（東京大学出版会）他

神田修二｜SHUJI KANDA

1979 年～2013 年まで環境省に在籍。中部山岳、伊勢志摩、十和田八幡平の各国立公園管理事務所勤務の後、福井県自然保護課長、環境省国立公園課長、東北、九州及び中部の各地方環境事務所長を歴任。2013 年 5 月より、いであ株式会社勤務。2013 年～18 年、首都圏自然歩道を全線踏破。2019 年～みちのく潮風トレイルを北上中。『長距離自然歩道の半世紀』（環境省 HP) 執筆。

海津ゆりえ｜YURIE KAIZU

農学博士。立教大学理学部化学科卒業後、地域計画に従事。1995 年「資源デザイン研究所」を設立し代表取締役就任。国内外のエコツーリズム・サイト調査や開発支援を行う。2007 年より文教大学国際学部准教授、2013 年より教授。奄美群島振興開発審議会委員、（一社）日本エコツーリズム協会運営役員、NPO 法人日本ガラパゴスの会理事、（一社）日本ブルーフラッグ協会理事等務める。『日本エコツアー・ガイドブック』（岩波書店）等著作多数。

木村宏｜HIROSHI KUMURA

東京でホテル、リゾート開発企業に勤務後、長野県に移住。宿泊施設経営後、信州いいやま観光局にて、観光まちづくり事業を展開。森林保全活動をきっかけに、日本のロングトレイルの父・加藤則芳と出会い「信越トレイル」の整備・事業化にも取り組む。現在信越トレイルクラブ代表理事を務め、日本ロングトレイル協会では常務理事として日本のロングトレイルの普及活動にも従事。2016 年より北海道大学観光学高等研究センター教授。

勝俣 隆｜RYU KATSUMATA

北中米勤務時代に UL ハイキング黎明期の胎動を本場アメリカで体験した日本の UL ハイカー第一世代の中心人物。ハイキングの文化的歴史的背景にも造詣が深い。ジョン・ミューアとソローの研究をライフワークとする。夏はシエラネバダのトレイルで過ごすことも多く、日本人で最も彼の地の情報に精通しているハイカーと言っても過言ではない。著書『Planning Guide to the John Muir Trail』（Highland Designs）

相澤久美｜KUMI AIZAWA

1992 年米国から帰国。1996 年から一級建築士事務所主宰の傍、書籍編集、映画プロデュース等行う。東北沿岸の支援活動を経て、長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」運営計画策定に携わり、2017 年 NPO 法人みちのくトレイルクラブを設立、常務理事・事務局長としてトレイル全線の運営を担う。2020 年 にトレイルブレイズ ハイキング研究所を設立、各地のロングトレイルの敷設・運営支援に携わる。2020 年、青森大学客員教授着任。